

令和7年度 授業改善推進プラン<英語科>

大田区立大森第十中学校

○英語科における令和7年度授業改善プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・成果

- ①全学年で、全体・基礎・活用の正答率が全て目標値及び全国平均正答率を上回った。また、観点別正答率、領域別正答率、問題の解答形式別正答率も全ての学年で目標値及び全国平均正答率を上回った。
- ②第1学年では、領域別正答率及び問題の内容別正答率が目標値及び全国平均正答率を上回った。小学校での学習の成果が現れている。
- ③第2学年では、観点別正答率及び領域別正答率が目標値を上回った。特に「書くこと」が目標値を20.8%上回った。日頃から教科書のテーマを用いて文構造を意識したまとまりのある英文を書く機会を設け、表現させる指導に取り組んだ成果が現れていると考えられる。
- ④第3学年では「3文以上の英作文」の目標値が最も高い項目で25.9%上回り、全国平均正答率も19.4%上回った。テーマに基づいてエッセイを書き、それに基づいてやりとりしたり、意見を発表したり、英語で表現することを意識的に授業に取り入れた成果が現れている。

・課題

- ①第1学年 問題の内容別正答率では「会話全体の理解(聞く)」と「英文の読み取り(聞く)」が目標値を3.3%上回るに留まった。今後は、デジタル教科書の活用やALTとのやりとりを通じて「聞く力」を定着させる。
- ②第2学年では、「聞くこと」が目標値を8.3%上回るに留まった。今後は、聞き取るべきポイントを事前に伝え、概要の掴み方を明確にし、概要を聞き取る力と、詳細を聞き取る力の両面を高める指導を行っていく。
- ③第3学年の問題の内容別正答率では「場面に応じて書く英作文（理由をたずねる）」が、目標値を13.1%下回った。今後は、教科書を用いて語彙力と文法力の強化、授業で話した英語は書いてみるなど実践的な練習を積んでいく。

○英語における大田区学習効果測定の結果分析

達成率（経年比較）△目標値を上回る ≈目標値と同程度である ▼目標値を下回る

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	全体 △ 基礎 △ 活用 △		
第2学年	全体 △ 基礎 △ 活用 △	全体 △ 基礎 △ 活用 △	
第3学年	全体 △ 基礎 △ 活用 △	全体 △ 基礎 △ 活用 △	全体 △ 基礎 △ 活用 △

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none">・全学年で、全体・基礎・活用の正答率が全て目標値及び全国平均正答率を上回った。また、観点別正答率、領域別正答率、問題の解答形式別正答率も全ての学年で目標値及び全国平均正答率を上回った。・第2、第3学年の結果から、前年度の授業改善策とその実践に一定の効果があったと考えられる。
観点別結果の分析	<p>【第1学年】</p> <ul style="list-style-type: none">・全ての観点で正答率が目標値及び全国平均正答率を上回った。「知識・技能」に関しては、正答率が目標値を10.4%、全国平均正答率を6.2%上回った。「思考・判断・表現」に関しては、正答率が目標値を5.8%、全国平均正答率を5.8%上回った。 <p>【第2学年】</p> <ul style="list-style-type: none">・「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点で、正答率が目標値及び全国平均正答率を上回った。「思考・判断・表現」に関しては、目標値を16.1%程度上回った。 <p>【第3学年】</p> <ul style="list-style-type: none">・「知識・技能」「思考・判断・表現」の全ての観点で正答率が目標値及び全国平均正答率を上回った。「思考・判断・表現」に関しては、正答率が目標値を6.4%上回った。

○調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 主体的に学習に取り組む態度を育む。
- 2 言語に関する指導を充実させ(文法)、語彙を増やす。
- 3 英文の内容を正確に読み取る力(読む)、英文の内容を正確に聞き取ったりする力(聞く)を高める。
- 4 自分の考えを文にしたり(書く)、話したり(話す(やりとり・発表))表現する力を高める。

○英語科の授業改善策

- 1 主体的に学習に取り組む態度を育むために。
授業においては、生徒が「分かった」という達成感や自己肯定感をもてるよう指導の工夫や改善を継続する。また、アクティビティ活動やALTとの会話を通して、意欲を高める。

- 2 言語に関する指導を充実させ(文法)、語彙を増やすために。

第1学年

言語に関する知識を深めるために、TOKYO GLOBAL STUDIO や ALT を活用し、どのような場面でどの文法や表現・語彙を用いることが適切かを理解させることで定着を図る。

第2学年

新出事項の導入を英語中心で行い、ペアワークやグループワークなどの協働活動を中心に Speaking 練習をより多く取り入れて定着を図る。

第3学年

単語を授業内で何度も取り上げつつ、ペアワークやグループワークも取り入れ、生徒が積極的に話す機会をつくる。

- 3 英文の内容を正確に読み取る力(読む)、英文の内容を正確に聞き取ったりする力(聞く)を高めるために。

第1学年

教科書の各レッスンの SCENE2 と SETTING を活用し、精読だけでなくスキミング・スキミング力を高めることで、いろいろな英文を読む力を向上させる。デジタル教科書やリスニング教材を使用し、英語を正確に必要な情報を聞きとる力を身に着けさせる。

第2学年

教科書の音読練習 (choral reading, pair reading, buzz reading, individual reading) を効果的に取り入れ、教科書の内容理解のために、Oral Interaction、prelistening Task や Q Aを取り入れ、文章の大意と詳細を読み取らせる。

第3学年

教科書の READ を活用し、精読だけでなくスキミング・スキミング力を高めることで、さまざまな英文を読む力を向上させる。教科書の LISTEN やその他のリスニング教材を使用し、英語を正確に必要な情報を聞きとる力を身に着けさせる。

- 4 自分の考えを文にしたり(書く)、話したり(話す(やりとり・発表))表現する力を高めるために。

第1学年

教科書の READ で示されたテーマに基づき、自分の考えを英文で書き、発表させる。教科書の Talk のスクリプトを用いていろんな場面に基づいたやりとりを行なったり、帯活動として既習事項を用いた英語のやりとりを行なったりする。

第2学年

「話す能力」を伸ばすために、毎時間にスモールトークを行い、英語を話す場面を設定し、基本的な文型や基本表現、文法事項を活用して英文を書く時間を確保する。

第3学年

授業において、イントロダクション・ボディ・コンクルージョンに基づいた英文エッセイ指導を行い、自分で書いたエッセイを使ったやりとりや発表を行うことで、表現力を伸ばす。中学校英語「話すこと」トレーニングを活用し、質問に答えたり、状況を描写・説明したり、考えや意見を述べたりできるようにさせる。